



ネイチャーなら

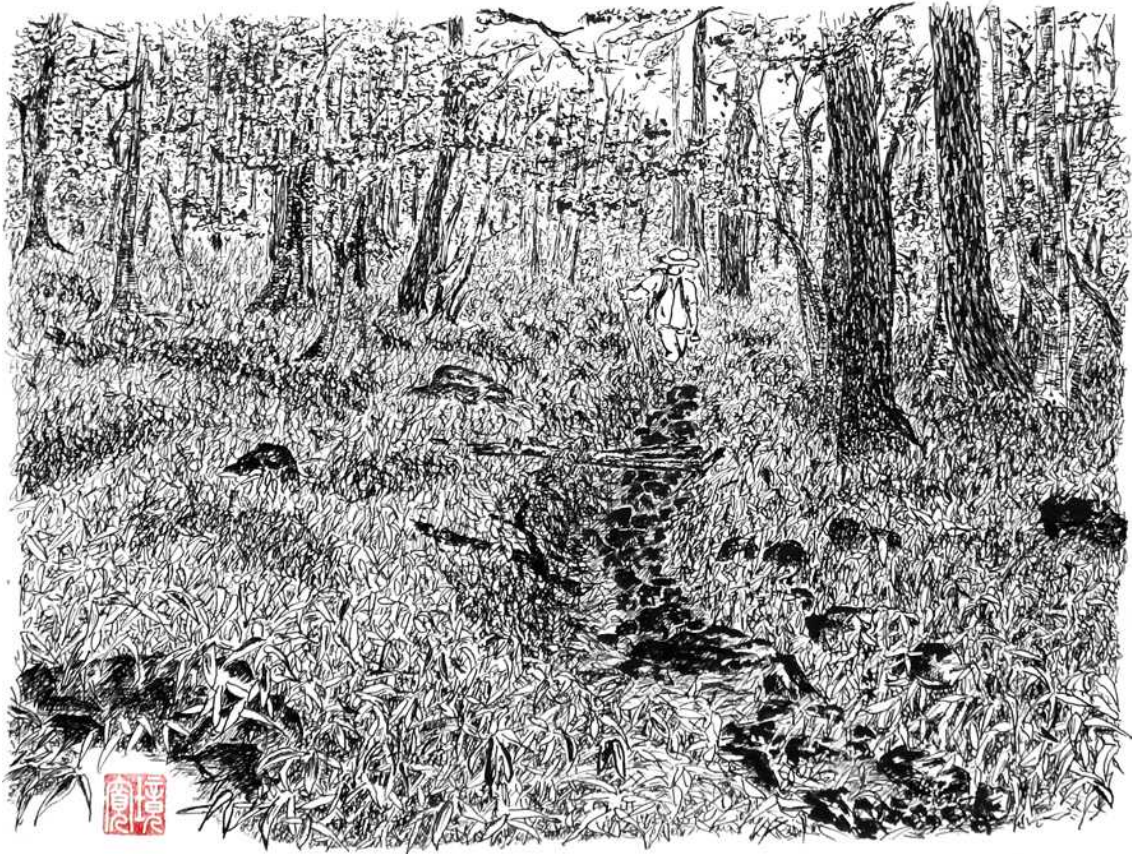
《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2014年9月1日

9月号・第152号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



連載再開・『鳥』シリーズ



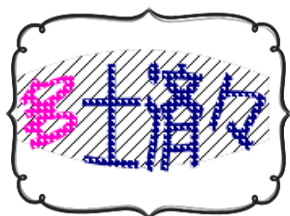
Contents



多土済々.....	①	俳句百景.....	⑭
Monthly Repo.ならやま.....	②	癒しの散歩道 & ならやま茶論.....	⑮
里山の今.....	③ ④	ならやまプロジェクト(エコ・ファーム).....	⑮
カシナガトラップ調査.....	⑤ ⑥	ならやまプロジェクト(9月).....	⑰
GGプロジェクト報告①②.....	⑦ ⑧	行事案内①.....	⑱
8月・月例研修会報告.....	⑨	行事案内②.....	⑲
やさしい病害虫講座⑤.....	⑩	行事案内③ & 奈良学クイズ.....	⑳
「鳥」シリーズ.....	⑪	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記.....	㉑
青垣春秋.....	⑫		
Galleryならやま.....	⑬		



会報紙はカラーでホームページに掲載しています。 URL <http://www.naranature.com>



知の人・創の人・動の人

古川 祐司さん

顧問 川井 秀夫

私がシニア自然大学（当時）の研究課程である環境科で地球環境問題を学んでいた頃、新しく「自然と文化科」を創設され、京都大学渡辺弘之名誉教授の「地球環境生態系講座」の世話役としても存在感を発揮され、初めてお会いした接点であったと記憶しております。

前後して当会の最初の活動拠点となった、いこま西畑町 棚田の原風景再生に、いち早く参画して頂き、特に自前の竹炭窯、炭小屋の配置など技術を駆使して、竹のリユースに尽力して頂き、我々の遺産として長く残る事でしょう。

程なく棚田クラブは発展的に独立し、我々の重点活動は柳生 国有林から ならやま里山景



梅林植樹

観整備に移ってゆきます。ここでも古川さんの構想力が発揮されます。

ならやまプロジェクトの結成。景観整備を大義名分として山林の間伐・灌木の除去・竹林の整備・荒地の開拓・環境美化と寒暑を問わず過酷な作業が展開されて行きます。

社会的にも大型助成が認知される様になり、機動力も具備され価値観の異なる方々も、それ

ぞれの持ち場で力を発揮して呉れました。

GMの指導力は元より、集団の融合が基盤となり、一年後には今の原形が確立したと確信しております。

古川さんとも同志として長いお付き合いになりました。博学の人であり、豊かな創造力と実行力、当会のキーマンの一人として敬服しております。古川さんの印象をもう一つ。会議でよく議論が沸騰して意見が出尽くした頃、この方の主張が吐露され収束する事がしばしばありました。

本来、やや頑なな信念の人でありながら、難題がテーブルに乗ると客観的に対処される術は流石で、佛典の、極端からは何も生まれないと言う「中道の教え」を地で行く才に敬服したものです。

また、蕎麦クラブの結成、歴・文クラブの発足、最近では果樹の育成、第五地区の再生など、その行動力に私など辟易する事も多く、尻を叩かれております。

蕎麦の選別



古川氏との約束があります。歴・文クラブを通じ、2020年まで現役で頑張ろうとエールを交換しております。何故なら2020年は日本書紀編纂1300年の節目でもあり、オリンピックイヤーでもあるからです。果たしてこの老躯でどうか。これを年寄の冷水と言うのでしょうか。ご一笑下さい。



Monthly Rep ならやま

木村 裕

7月24日(木) 曇り一時晴れ 59名+2名



里山Gは、26日のイベントに向け、工作材料、バームクーヘン用の竹の手配。カシナガトラップ調査、しいたけ菌接種木の木陰への移動。



エコファームGは、ダイコン栽培予定地へのマリーゴールド播種、水田の除草、ナス等の収穫。

エコファームGは、ダイコン栽培予定地へのマリーゴールド播種、水田の除草、ナス等の収穫。

景観Gは、イベントに向けBC周辺の除草、ザリガニ集め。センチコウ花壇の除草とアジサイの剪定。

7月26日(土) 晴れ 31名+71名

「夏だ！休みだ！里山に行こう！」のイベント実施。昆虫観察、池の生き物観察、バームクーヘン作り、水鉄砲作りなど、子供達の元気な声が響き渡った。

7月31日(木) 晴れ 55名+2名

8月号の会報配布。新しいテントに機材保管庫を設置。シニア自然大学校の実習生2名は、



パトロール班に同行し散策道の整備。

里山Gは、里山林ではカシナガ被害木の調査。自然林ではなら枯れ被害が多発したため実態調査。



エコファームGは、コナギに占領されつつある水田救助のため、女性会員が中心となって汗水をたっぷり流し

た。ナス・ピーマン・カボチャなど ならやまの幸も豊富。

景観Gは、第5地区でソバ栽培に向け、賑やかに咲いていたヒマワリ軍団の刈り取り、池の生物調査。

8月7日(木) 晴れ 58名+12名

ナラ枯れの実態調査に県から3名みえる。精華町の里山の会のメンバーが我々の活動実態の見学に見える。

里山Gは、シイタケ菌接種材の森林内の適地へ移動、カシナガ被害木の実態調査、カシナガトラップ調査、第5地区の丸太を製材化するために材の集積を図る。

エコファームGは、第5地区のサツマイモの収穫、思いのほか大きな芋がごろごろ。ナス・ゴーヤ・ピーマン・インゲンなど収穫も多く、会員に喜ばれた。



景観Gは、第2・第3の駐車場・彩の森の除草。山野草花壇の除草と施肥。

8月21日(木) 曇り一時晴れ 64名+1名

里山・景観Gは、23日のイベントに向け、山遊びの仕掛け準備・BC周辺の除草。



エコファームは冬野菜栽培に向け、畑の耕起・石灰処理、サトイモの除草、雑草に埋もれハスの葉状態にあったサトイモが姿を現す。

エコファームは冬野菜栽培に向け、畑の耕起・石灰処理、サトイモの除草、雑草に埋もれハスの葉状態にあったサトイモが姿を現す。

第5地区でソバ栽培に向け、畑の除草。湿地花壇の除草、蔓状の雑草と格闘。



◇ならやま花だより◇

桜木晴代

猛暑の中、草刈機が地面を覆い尽くした草を刈っていく。花だより班は刈られる前に、咲いている花を見つけ名を調べねばならない。正にスリル満点である。夏は高山ではたくさんの植物が清涼な空気の中で清々しく可憐な花を咲かせる。里の植物は刈られる恐怖と炎天下で必死にたくましく生きている。そんな中、ピオトープ南西?角のヌマトラノオの群生は見見。

トケイソウやヤブガラシのツルの巻き付いたら離さないという強さで周りの植物にクルクルと絡んでいる姿も見見。

*ツルについて一口メモ

種類

- ・ひっかけ型 (イラクサ ママコノシリヌグイ)
- ・まきつき型 (アサガオ フジ) (右巻・左巻)
- ・まきひげ型 (サルトリイバラ フウセンカズラ)
- ・ひつつき型 (ツタ イワガラミ) (気根・吸盤)



<畑>エノコログサ コニシキソウ カヤツリグサ ヒャクニチソウ コスモス カボチャモミジアオイ グラジオラス トケイソウ

<花壇>キバナコスモス センニチコウ

<山野草園>キキョウ カクトラノオ ホタルブクロ ヘクソカズラ ムラサキシキブ

<ピオトープ>ヌマトラノオ ガマ ヤマノイモ ミツバ

<山・里>ヨウシュヤマゴボウ ヤブガラシ ナツフジ ベニバナボロギク ヤブザサ ヤブミョウガ ヤブカンゾウ タンポポ ヒメジョオン ツユクサ タデ ジュズダマ ウラジロチチコグサ メヒシバ ヒメヒオウギズイセン

<実>クリ ナツハゼ ソヨゴ

◇ペタキン日記 28◇

羽尻 嵩

7月25日(金) 晴

「ならやま池」に行くと、突然一羽のカルガモが飛び立った。この池の築山で抱卵していたカルガモは6月末に子供が孵って、親子ともいなくなっているはずなのにおかしいなと思って池の中の築山を見ると、何と、飛び立ったものとは別のカルガモがもう1羽いるではないか。カルガモは年2度抱卵すると聞いていたので、この2羽のカモは前にここにいたツガイだと思った。それにしても36~37℃の猛暑の中、西日をまともに受けても抱卵し続ける母鴨の本能とでもいうべき執念はすごいものだ。



7月26日(土) 晴 「ならやま池」に入って昆虫をすくっていると、突然、築山からカルガモが飛び立った。築山の茂みを覗くと、前回と同じ6個の卵が確認できた。巣の周りに日陰用の草を置いてやる。後で、池の築山を見ると母鴨が巣に帰って、抱卵を続けていたのでホッとす。

雛が孵るのは8月20日前後であろう。今度こそ親子が連れだって歩く姿を見たいものだ。



◇ならやまに珍客(ホソオチョウ)◇

菊川年明

7月当初、ならやまBCでホソオチョウが発見された。発見者は山本妙子さん(奈良)で、メスのチョウであった。このチョウの雌雄は斑紋を異にするので、識別は簡単である。平成20年の夏に現れたことがあり、6年ぶりの発見でもある(会報の平成20年8月号に記事・写真)。

このチョウは元々朝鮮半島などに棲息する外来種で、1970年代の後半に東京都下で発見され、今ではあちこちの府県で棲息が確認されている。誰かが国内に持ち込んで放つたらしく、その後の拡散も人為的に行われたものとみられている。

この辺りで棲息地として知られているのは京都府の木津川流域で、ならやまに現れたチョウは木津川河川敷のどこかから飛来したものと思われる。

このチョウはアゲハの仲間であるが、よく見かけるナミアゲハより一回り以上小さい。しかし、後翅についている尾状突起は細いが長く、これが名前の由来になっている。

このチョウの幼虫の食草はウマノズクサなので、ジャコウアゲハの幼虫の食草と競合するところから、ジャコウアゲハ保護の観点から問題視もされている。

今回山本さん発見のチョウはメスなので、移動中にならやまBCのウマノズクサを見つけて飛来したのに違いなく、発見時には既に産卵していたようである。というのは、ほどなく幼虫が発見され、それもかなり成長していたからである。

7月末のある日、次世代らしいチョウ(写真)が現れた。オスのチョウで、飛んでいるときには白いチョウのように見える。ゆっくりした羽ばたきで、草丈くらいの低いところを優雅に飛んでいた。後続のチョウが現れるかもしれないと思っていたが、その後は目にしていない。



◇パトロール班 Repo◇

菊川年明

お盆前に通過した台風11号の風雨により倒木、落枝が数箇所が発生した。ことにP3~4の間では太い枯アカマツ

ツが観察路上に倒れている。また、P22の直下でも枯アカマツ2本が倒れ、観察路を半ばふさいでいる。早急の除却が必要である。

ならやま自然の森の観察路の尾根筋でカシナガの被害木が見つかったのは初夏の頃であるが、その後被害木は爆発的に増え、フラスという独特の木の粉が吹き出ている木だけでなく、一木全枯葉という被害木が至る所に現れた。場所によっては集団状態の所もある。今春に芽吹き、青葉にまでなったコナラの木だったのに、それが忽然と枯死したようである。今後の推移が心配である。

守口さんのご尽力でいろいろな樹木に名札が吊り下げられている。今まで何という木だろうと思っていた木の名前がわかり、また、名前だけは聞き覚えのある木もよくあるので、そういうときには知人に出会えたような気分になる。まだまだ、樹木の名札を増やしてくださると思うので、観察路歩きがますます楽しみである。

最近ある書籍を読んでいたら、「佐紀佐保丘陵が淀川・大和川両水系の分水界」と書いてあった。パトロールの途次、水が南北(大和川・淀川)に分かれるのはどの辺りかなと思いつきながら歩くこともある。

ならやま自然の森の尾根を行く道のオオタカの辻の近くに、故人になられた田中修さんが主になって作った階段(写真)がある。今年、春まだ浅い日に一緒に作業をしたことがつい先日のことのように思い出される。コナラの細い幹で作られたポイント表示も田中さんの事跡である。彼の入院、そして訃報はそれから日ならずしてのことであった。田中さんの御霊の安かれとお祈りする。



カシナガトラップ調査 (ナラ枯れ対策)

森 英雄・木村 裕

県から支給されたカシナガトラップ KMC を利用したナラ枯れ被害防止対策を行いました。まだ調査は継続中ですが、カシノナガキクイムシの発生は終息に近づいています。

カシナガトラップ KMC とは、漏斗状の透明なカップを 25 段繋げたものを樹幹に配置し、それに衝突して落下する成虫を集める装置で、下部にエチルアルコールの入ったペットボトルを配置し、落下虫の殺虫と誘引剤としての役目を司っています。カシノナガキクイムシは皆さんと同じようにお酒が大好きなようです。



設置場所は、ならやま里山林の西側の谷筋で昨年カシナガの被害が多かった地域に 6 月 12 日に 1 樹に対して 2~3 基、8 樹に対し合計 20 基配置しました。

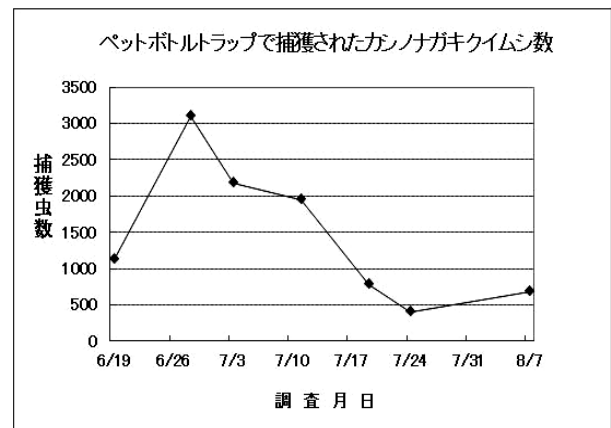
調査はならやま活動日 (1 週間毎) に行い、ペットボトル内の虫数を調べ、アルコールの追加・入れ替え等を行いました。

捕獲された虫は、カシノナガキクイムシ、ヨシブエナガキクイムシ、キクイムシ類が中心でしたが、オオナガコメツキもかなり捕獲されました。

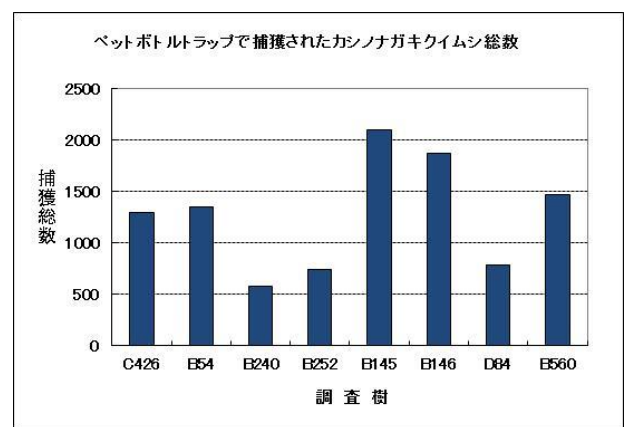


設置 1 週間後の調査において、全てのトラップでかなりの個体が捕獲され、樹幹からのフラス (食入虫が排出する粉状の木屑と虫糞) の排出も確認されました。このことから虫の発生・飛来はもう少し早い時期から始まっていたものと推察されます。トラップ設置時の 6 月 12 日時点では、虫はまだ発生していないだろうと思っ

ていましたが、予想は甘すぎたようです。トラップでの虫の飛来消長は、6 月 26 日調査をピークに 7 月中旬まで多く推移しましたが、それ以降は減少傾向にあり、8 月 7 日調査においてもまだかなりの飛来が認められています。



捕獲虫数はトラップ (調査樹) によってかなりの開きがあり、最も多いトラップで約 2000 頭、少ないトラップで 700 頭と約 3 倍の差があります。



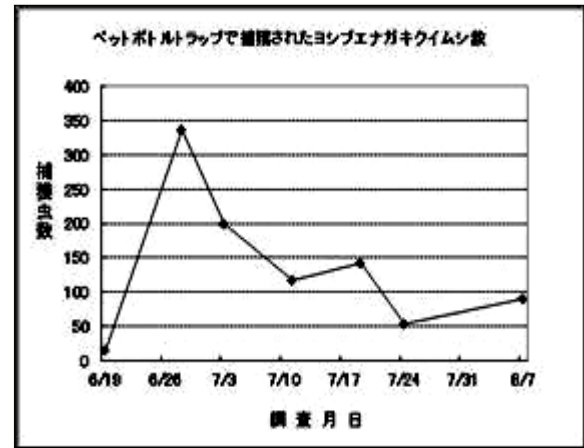
調査樹 8 本中 7 本でカシナガの食入被害が認められたことから、誘引剤としてのアルコールは、虫を呼び集める効果があるとともに、トラ

ップから逃れた虫が幹に食入するの多いよう
で、トラップ配置が防除対策に繋がるとは言い
がたく、検討を要します。

ナラ枯れの誘引原因とはなっていないが、
ヨシブエナガキクイムシもかなり捕獲されまし
た。飛来消長はカシナガとほぼ同じような傾向
が認められ、トラップ間の差は10倍程度でした。

今後、カシナガトラップを設置し、カシノナ
ガキクイムシの食入被害を受けた樹が、枯れる
かどうかを継続調査する必要があります。なら
やま自然林ではナラ枯れが多発していますが、8
月7日現在、これらトラップ設置樹では大量の

フラスの発生はあるもののナラ枯れ症状は現れ
ていません。



カシナガトラップで捕獲されたカシノナガキクイムシ

樹番号	トラップ数	調査月日							合計	食入の有無
		6/19	6/28	7/3	7/11	7/19	7/24	8/7		
C426	3	162	464	288	165	88	50	80	1297	有
B54	3	114	485	324	294	57	16	57	1347	有
B240	2	19	107	170	186	39	26	32	579	有
B252	2	17	75	185	269	139	32	27	744	有
B145	2	262	430	544	390	140	115	218	2099	有
B146	3	118	910	360	281	97	46	64	1876	有
D84	2	180	370	86	72	36	25	16	785	有
B560	3	244	255	219	290	178	94	185	1465	無
合計	20	1116	3096	2176	1947	774	404	679	10192	
平均		140	387	272	243	97	51	85		

カシナガトラップで捕獲されたヨシブエナガキクイムシ

樹番号	トラップ数	調査月日							合計	食入の有無
		6/19	6/28	7/3	7/11	7/19	7/24	8/7		
C426	3	0	0	7	10	15	2	3	37	有
B54	3	0	0	8	21	41	23	18	111	有
B240	2	0	0	0	0	21	5	30	56	有
B252	2	3	27	21	8	8	3	11	81	有
B145	2	4	64	34	31	18	2	0	153	有
B146	3	1	9	12	18	16	15	8	79	有
D84	2	2	173	95	16	20	2	16	324	有
B560	3	5	64	23	14	4	2	4	116	無
合計	20	15	337	200	118	143	54	90	957	
平均		2	42	25	15	18	7	11		

夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！①

イベント報告

7月26日(土)、奈良県「山の日・川の日」行事に参加するイベントをGGP協賛の下「ならやまベースキャンプで行った。

このイベントは毎年行われてきていて、夏休みの期間を利用して、子供たちに自然に触れ・遊んでもらうのが目的だが、付添の保護者にも同様の体験をしてもらっている。

定員50名で募集したが、募集開始2日目で定員をはるかに超える応募者があり、当日の参加者は子供37名、保護者30名、計67名となった。

開会式までの空き時間に、子供たちを集めて、クロスゲーム・エノコログサの引張りあい・クズノハの音だしなどの自然遊びをやった。

午前中は、2班に分かれて昆虫観察をした。

子供達が追いかけて回す昆虫はバッタ類、トンボ類が多く、ショウリョウバッタが一番標的になっていた。「何虫か？」と尋ねる子供も多く、説明者は「引っぱりだこ」の盛況だった。1週間後だったらバッタの成虫がたくさんになるが、成虫のバッタが少なかったように思える。

池では、タライやバケツに捕獲されているミナミヌマエビやミズムシ・マツモムシなどのカメムシ類を観察した。人気があったのはザリガニとドジョウだ。その後、各自網で池の中の生き物を採って遊んだ。中にはドジョウをとった子供もいて、大喜びだった。保護育成しているバラタナゴも見せてもらった。

昼は木陰で食事でしたが、猛暑の中、冷たいシソジュースが出て好評だった。



昼食後は、バームクーヘン作りだ。釜戸の上で竹に生地を塗り仕上げていく作業は暑いので子供も保護者も敬遠気味だったが、スタッフの頑張りできれいに仕上がり、みんなでそれをおいしく頂いた。



その後、竹で水鉄砲作りをした。子供たちは、紐でつるしたいろんな的や飛び出してきた塩本人形めがけて水を飛ばし、鉄砲の横から漏れてくる水で服をぬらしながらも夢中になっていた。



閉会式後、カブトムシのお土産があった。

参加者アンケート結果

夏休み小学生向けの奈良県のイベントガイドのチラシを見ての申込みが半数強で、奈良市からの参加者が半数近くでした。

【保護者の感想の抜粋】・・・「自然と遊ぶのはとても楽しいものです」「久しぶりに子供と一緒にいろんなことができよいい思い出になりました」「孫がうれしそうで、こちらもうれしくなりました。」「日頃、年輩の方と触れ合うことが少ないので、年輩の方にいろんなことを教えてもらい、貴重な体験が出来ました」「暑い中、沢山のことをよく準備され、手回しもよく、感謝申し上げます」「景色がとても良く、スタッフの方が親切で癒されました」

【反省点】 イベントの目的をもう少しはっきりさせること。7月末の暑い時期を考慮して内容を再考すること。イベント内容に合わせてスタッフ人数を配置すること。 (羽尻 嵩)

「夏だ！休みだ！里山へ行こう！②」 イベント報告

「夏だ！休みだ！里山へ行こう！②」は、天気予報に振り回された末の予備日、8月24日(日)での実施でした。そのため、参加者の確認やスタッフの確認等に手間取り、その分余分な労力が必要になるといった結果につながりました。来年度以降のこういったイベントの実施について大きな課題となったように思えます。

しかし、当日は、スタッフは8時30分にBCに集合。打ち合わせの後、開会に向けてのテント張りや書類の点検、その他車誘導員の配置等、手取り早く準備が整います。

開会式前にはスタッフによる自然講座がありましたが、会長や協賛団体の挨拶のあと、全員で記念撮影。今回は、予定していた人数の半分、29名の参加ですが、それでも今にも泣き出しそうな天気にもかかわらず、元気いっぱいな顔をカメラに見せてくれます。



そして、いよいよ自然観察、里山散策と遊びの広場が始まります。それぞれ3つのグループに分かれて里山に入り、スタッフから動植物の不思議や里山の今が抱えている課題等について説明を受けました。しいたけの話や今全国の山々で問題になっている「なら枯れ」の説明は、特に興味や関心をもたれたようです。また、遊びの広場での時間は、子供たちが一番楽しみにしていたようで、ここではロープ渡りやブランコ、また丸太渡りや木登り等がスタッフの手によって準備されています。そこでは時間を忘れて大声を出して目いっぱい遊ぶ子供たちが印象に残ります。普段こういった環境の中で遊ぶことのない子供たちの毎日が垣間見えるようです。

その後戻ったBCでは、スタッフ心づくしのしそジュースを飲んだりやき芋をほお張りながら、楽しい昼食をとります。やはり蒸し暑い中での活動ゆえか飲み物が飛ぶように売れます。特にしそジュースが好評です。

昼食の後はバウムクーヘン焼きが待っています。今回は3班編成のため、全部で各班2本ずつ合計6本を親子協力して焼きます。しかし今年のバウムクーヘンは例年以上にうまく焼け、見た目も味も今までで最高と感じられます。やはり年を重ねることは貴重なんですね。



最後は、竹ぽっくり作りです。このころから空が一段と怪しくなりますが、竹切りの現場は熱気でむんむん。子供たちも今まで経験したことのない竹切りや穴あけには興味があるようで、一生懸命竹に向かう子供たちの真剣な顔、顔、顔。その後の竹ぽっくりを使った遊びの後にはスタッフが準備した「完歩証」をもらって大きな子も小さな子も大喜び。楽しい時間が過ごせました。



でも、各自作った竹ぽっくりを使っただけの遊びの時間の最中には無常にも空から大粒の雨が・・・とうとう土砂降りの天気になってしまいました。このために予定終了時間を繰り上げ、閉会式を行わざるをえませんが、多くの参加者の顔には楽しかったよ、という表情が十分すぎるほど見て取れます。

また機会と興味があれば是非こういったイベントにも積極的に参加してほしい、という副会長のまとめでイベントを終了しました。

(八木 順一)

8月・月例研修会

伊吹山霧中探索 & 醒ヶ井わくわく街道

8月4日(月)、未明から小雨がぱらつく。気象庁レーダーナウキャストと午前5時からBSフジのウェザーニュースで雨雲の詳細情報を得る。

午前8時に奈良を出発。多賀SAを過ぎ伊吹山が見えてきたが、山頂付近一帯は雲に覆われている。現地を確認すると時々小雨模様とのこと。ドライブウェイに入り高度800mぐらいになると霧が濃くなり、駐車場に到着すると視界が10m以下となる。幸い雨は降っていないが霧が濃いので、団体行動に気を付けて西登山道を登る。時々上昇気流に霧が流され、眼下に琵琶湖・米原や長浜などの町並みが広がる。高度差100mほどの山頂には、早いグループで約40分、最後尾のグループは、約40種ほどの花々をチェックしつつ約1時間で全員無事に到着。

代表的な花は、メタカラコウ・クガイソウ・リトラノオ・シモツケソウ・キンバイソウなど。白い小さい花のキヌタソウや細い葉のキバナノカワラマツバもあちこちに咲いていた。ヒヨクソウやイブキフウロ・オオヒナノウスツボ・キバナノレンリソウなどを見つけた時は嬉しかった。サラシナショウマは沢山の穂が出ていたが、白い花が一面に咲くのはもう少し後のようだ。そのかわりにアカソが一面に咲いていた。物凄く沢山あるのに何の花か分からなく、伊吹山を守っている人にお聞きすると、フジテンニンソウとのこと。物凄い勢いで蔓延して困っているとのことでした。

イブキフウロ →



イブキジャコウソウ ↓



梅花藻 →



伊吹山山頂(1,377m)日本武尊石造前にて

昼食後、東登山道と中央登山道の2班に分かれて、12時30分に山頂をスタート。下り道での注意事項などを確認しつつ駐車場を目指す。「シロシタホタルガ」という珍しい蛾に出会う。真っ白い横一文字のラインが印象的である。幸い雨にも逢うことなく高山・亜高山帯の美しいお花畑に目をやり、足下にも気を付けながらの下山。13時40分にバス乗車、霧が一層濃くなりドライバーさんも超安全運転。

醒ヶ井に14時30分に到着。中山道沿いの地蔵川に群生する梅花藻を觀賞する。平成の名水百選第一位に選ばれた「居醒の清水」を水源とする湧水の川は、年間を通して14℃前後。このような清水が、ならやまに流れていたとすれば、趣の違った里山の再生ができたかもと空想することも……。白い可憐な梅に似た花に見とれつつ湧水の所へ歩を進める。清水で喉を潤す人、ペットボトルに詰める人も……。湧水場所にハリヨ(岐阜県と滋賀県のごく一部にしか生息していない絶滅危惧種)が1匹見つかる。ヴォーリズが設計した旧醒ヶ井郵便局(国の有形登録文化財に指定)等、醒ヶ井宿の佇まいにも見惚れていると、たちまち出発予定時間となる。

17時30分頃、無事奈良に帰着。霧中探索であったが、ご参加いただいた皆さんの表情から、沢山の高山・亜高山植物を見ることができた満足感をお見受けし、3人の担当幹事は胸を撫で下ろしました。有り難うございました。(鈴木末一)

やさしい病害虫講座 5 天敵はテントウムシだけではない

無農薬栽培の救世主の代表はテントウムシですが、このほかにも多くの天敵(益虫)がいて、手助けをしています。

テントウムシの獲物はアブラムシが中心ですが、テントウムシのなかには少数派ですがカイガラムシやハダニ(アカダニ)、うどんこ病菌などを食べてくれるものもいます。

アブラムシを食べてくれる優れたものは、ヒラタアブ(アブの仲間)の幼虫です。



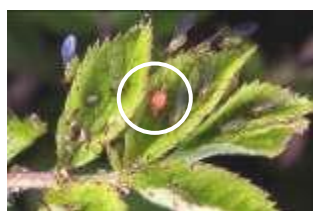
アブラムシを食べるヒラタアブ幼虫

あつと言う間に

アブラムシの一族を全滅させてくれますが成虫は花の蜜や花粉を食べる平和な菜食主義者です。

クサカゲロウは成虫、幼虫ともアブラムシが大好きですが、虫自体の密度が低いので、はたしてどれだけ役に立っているのでしょうか？

アブラムシの体内に寄生するアブラバチが近年注目され、商品化され生物農薬として販売されています。



アブラバチ

非常に小さな蜂ですが一匹必殺で、アブラムシ1匹にハチの幼虫1匹が寄生して体内を食い尽くしてアブラムシを死に追いやります。このハチによって死亡したアブラムシは、体色が黄褐色となり、体皮も堅くなっています。ハウス栽培など隔離された環境下では有効ですが、露地の家庭菜園では目移りがするのにかすぐに何処かへ飛んで行き、防除に大いに役立っているとは言いがたいです。

アオムシやヨトウムシの防除に役立っているのはアシナガバチです。獲物を捕まえると鋭い

顎で噛み砕き、肉団子にして巣に持って帰ります。軒下、植木棚、樹木の葉陰など、雨が直接当たらない所に巣を作っており、その巣に危害を加えると反撃してきますが、通常はおとなしいので仲良くしたいものです。

寄生蜂や寄生蠅は、働きは地味ではありますがアオムシや毛虫類の密度抑制に貢献しています。

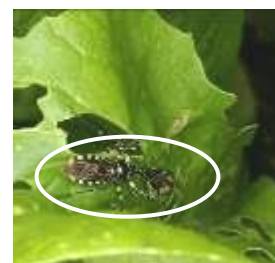


寄生蜂の繭と成虫

寄生蜂には、1匹必殺のヒメバチ類やコマユバチ類と集団で寄生する小さなコバチ類がいます。毛虫類がまだ小さな頃に卵が産み付けられ、大家の成長とともにハチの子も大きくなり、大家を最後の瞬間まで殺さずに生かし、常に新鮮な餌を食べて生長します。そして大家が蛹になる直前、または蛹になった頃に体内を食い尽くして自分も蛹になります。このように宿主をすぐに殺さないで直接の防除効果はありませんが、次世代の密度抑制に少しは役立っています。

寄生蠅も同じような生活を過ごします。成虫のハエはイエバエと同じような姿、大きさをしていますので、そのハエが益虫であるかどうかはハエに直接尋ねてみないことには分かりません。

カメムシ仲間のサシガメ類は、肉食性で鋭い口ばしでアオムシや毛虫類の体液を吸い取っています。



この虫を不用意に掴むと刺されて痛い思いをしますので注意してください。

(木村 裕)

鳥シリーズ 小田久美子

「カラス」はそんなに悪者でしょうか？

身近には嘴の細い「ハシボソガラス」と嘴の太い「ハシブトガラス」がいます。「権兵衛が種撒きゃ」ほじくるのは「ボソガラス」で、里山で人間と仲良く暮らしていました。一方、英名 Jungle Crow の「ブトガラス」は名前の通り奥山にと住み分けていました。

現代社会では、ゴミの散乱、巣材による停電や線路の置石事件、石鹼泥棒と何かと悪者にされるカラスです。賢さ故に良い餌場だと学習して都会に進出し、ホームレスレベルに身を落としましたが、古来は神の使いとしてステータスの高い鳥でした。

『古事記』や『日本書紀』では、神武天皇が大和を平定する道標を案内したのが三本足の八咫鳥。熊野三山には独特のカラス文字のお守りがあります。《三本足だったカラスが今のように二本足になったのは犬に一本あげたためです。昔、三本足だった犬が神様にお願したところカラスの足を授けて貰えました。犬は神様に頂いた大事な足にオシッコをかけないように片足を上げて用をたすようになった》と落語のような民話があります。

体は真っ黒に見えますが、水浴びなどで濡れた羽を良く見ると光を反射して紫・青など沢山の色が見え「鳥の濡れ羽色」はとても綺麗です。高価な呉服は何度も色を重ね染めして真っ黒になります。そんなところから《フクロウは昔染物屋をしていて、鳥たちの注文に応じて色んな色に染めてやっていた。カラスが一番美しい色にしてくれたと頼んだので、フクロウはああでもないこうでもない工夫しながら色んな色で染めていたら真っ黒になってしまいました。カラスは大変怒りましたがもう後の祭りです。それでカラスは今でもフクロウを見つけると追いかけて回す「烏梟(うきょう)の仲」なのだそうです。フクロウがカラスの活動する昼間はひっそり身を隠し、夜になってから活動するのはその為》という昔話があります。

ある日バードウォッチングで退屈している私に「ハシボソ」が自転車の鍵をこれ見よがしに枯葉の下に隠し、そのあと枝の上から私をウォッチングしているのです。こちら遊び心が湧き、鍵を違う場所に隠してみたら「ボクのだよー！」とばかりに直ぐ取り返しに来て飛んで行きました、こちらが遊ばれちゃいました。

又ある日、下校時の子供たちを歩道橋から見下ろしている「ブトガラス」が私を振り返り、大きな黒目で優しく何か云いたげでした。ゆっくり見合っていたら嘴の元に毛が生えて(カット参照)いるのに気付きました。



他の鳥たちは生きるのに精一杯なのに、人間の3・4歳児の知能を持つというカラスの生活は余暇を楽しんでいるようにも見えます。伏見稲荷で火の付いた蠟燭を盗んだのを目撃されています。賢くてもお片付けはしませんのでボヤや山火事が心配です。お墓詣りには心して下さい。

増え過ぎる一方で餌を与えて楽しむ人もいて「人の自由やほっとけ」と云われてしまうことも多く、奈良県では昨年「カラス条例」が出来ました。悪者扱いする前にカラス増加の手助けをしている私たちの生き方も考えなくてははいけません。

クルミや貝を空から落したり車に割らせたり。公園の水道を開けて水を飲む。チームワークで採餌。引き算が出来る？ 会話する？ 仲間の死を悼む。人間に甘える etc. 遠くへわざわざ出かけなくても、身近でバードウォッチング出来る鳥です。



役小角と修験道

歴史文化クラブ
川井秀夫

1 役小角とはどんな人

私が役小角を知ったのは、1980年代に近畿の名山を100山踏破の志を立て、夏休みには遠く富士山・立山・石槌山・大山・出羽三山など峻嶒な山に挑戦した時期があり、その都度「小角」と言う修験者の事蹟の多いのに驚かされ、彼の若き日の修行の場となった近在の金剛・葛城・熊野・生駒・吉野の各山にも思い出が蘇る。

彼は何者か。そんな疑問が今日まで心の中に沈殿していたように思う。怪異な人物、呪術により人を幻惑する男、鬼の化身、天狗の象徴と言った悪のイメージが強く残る

先日、彼の生誕地を訪ね（本誌8月号参照）修験者の大祭、蔵王堂の蓮華会の前行事である大和高田市 奥田の「蓮取り行事」を見学。彼の生家、母 刀良売（とらめ）の墓、庵を結んだと言う吉祥草寺の来歴などに触れ、私なりにその実像が見えてくる。

歴史書の実証は少ないが、読 日本書紀の文武天皇3年（699年）の条に次の記述がある。



～役君小角、伊豆嶋に流さる。初め葛木山に住みて呪術を以って称めらる。・・・後にその能を害ひて讒（しこ）ずるに妖惑を以ってせり、故遠き処に流さる。・・・～ と。

一言主神との確執、金峯山と葛木山に架橋する話、朝廷に反逆すると讒訴され伊豆に配流される顛末など面白い。一言主神の呪縛は現在なお解けないでいるとか。

私は思う。現世の理論では計れない事象が多く、小角の実像には不明瞭な点は拭えないが、この物語の根底には神仏習合の思想と共に、弥生人に追われた縄文人の怨念が漂う。後に「神変大菩薩」の称号を与えられ、修験道の開祖として仮託される事からも、日本の宗教史に残る傑物だったと思いたい。

空海以前の密教思想を掲げ、日本独自の原始密教の始祖といえるのではなかろうか。

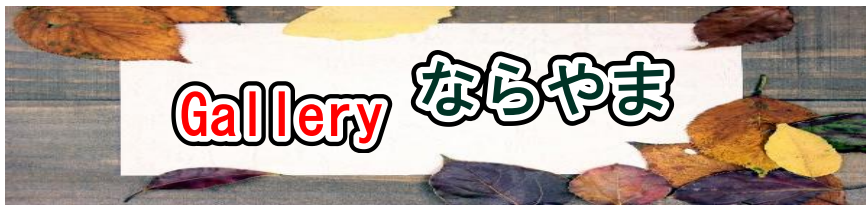
2 修験道とは

昨今。修験道の行に老若を問わず参加する一般人が増え続けていると言う。修験道には經典は無いが「法爾常恒」（常にあるがままの姿）の教義があり、大自然の音そのものを仏の説法として受け止め山中に入る。大自然の風光は言葉で表現する事は不可能としている。

日本では古来山岳は神霊の住処とされ、里人は山で修行する人を「修験」又は「山伏」と呼ぶ様になって行く。

真言宗・天台宗が密教化してゆき、鎌倉期には日蓮・道元・法然・親鸞など名僧が輩出し新しい宗派が形成され、修験者たちも組織化の必要に迫られ、役小角を崇敬の対照として各派が誕生する。神仏分離政策の後は修験道を廃止し、寺門を背景に「本山派」「当山派」に二分され、前者は天台宗、後者は真言宗に所属している。

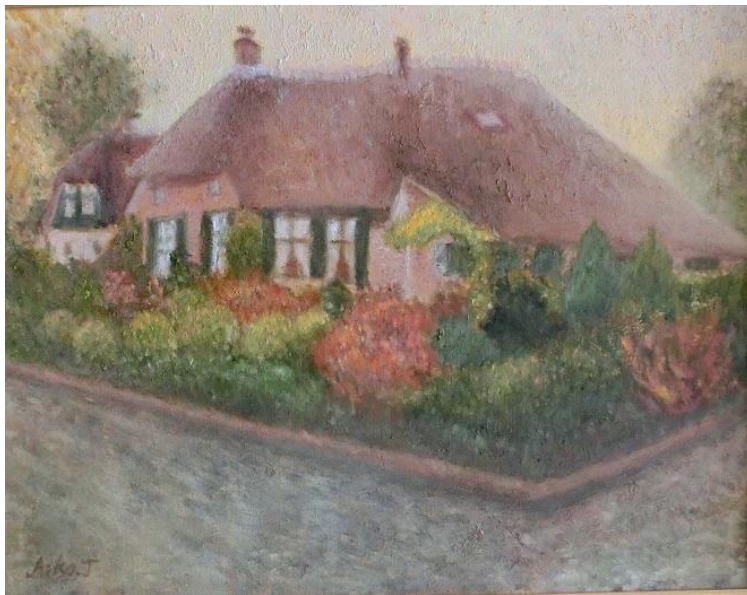
戦後はそれぞれ「金峯山修験本宗」「真言宗醍醐派」「修験道」など修験公団として独立し、活動している。



油彩画 (辻本愛子) 「オランダ、ギートホルン、藁葺きの家」

墨彩画 (羽尻 嵩) 「満月の日の物語」 カトレア (坂東久平) 「C.mossiae」

陶芸 (小島武雄) 「おねだり猫」 (白土 黒化粧土 マグネシウム吹き付け 土灰釉かけ)
「べた猫」 (赤土 黒化粧土 青磁釉かけ)



▲ オランダ、ギートホルン、藁葺きの家



▲ おねだり猫



▲ べた猫



▲ 満月の日の物語



▲ C.mossiae

大池や花火を映す綺羅盡

鈴木末一

薬師寺を望む大池か。町内の溜池でしようか。

夏祭が盛ん。七色の光芒が池面に絵を描く。真夏の夜の夢。

草を食みジャコウ揚羽のふわふわと

鈴木末一

麝香揚羽は馬の鈴草がお好き。里山には丹精の花園。

花と蝶の愛の交換。写生句としてふわふわの擬態語が利く。

楯枯れの老樹痛まし法師蟬

古川祐司

楯枯れの猛威が凄まじい。人為は為す術なし。

自然界の人間社会への鉄槌か。この害虫は今まで何処に居たの。

お手柄のひと抱えあり大南瓜

古川祐司

ウリ科の成り物は生命力が頗る強い。我々もかくありなん。

今年も里山は豊作。この句はやや誇張気味ながら諧謔さがある。

伊吹嶺に雲湧くばかり吾亦紅

八木順一

八月例会。伊吹山は生憎と霧の中。霧を「雲湧く」の

表記がお手柄。高山植物には霧は生命の糧。吾亦紅の姿が

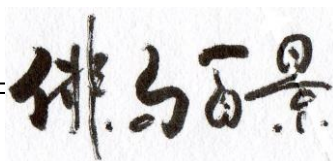
秋の到来を告げる。

梅花藻の花さわさわと地蔵川

八木順一

醒ヶ井の宿場町。地蔵川の清流に梅花藻の白い花が匂。

旅情をかき立てる日本の原風景がある。叙情の佳句。



監修 川井秀夫

ひまわりのずしりと重し天灼ける 西谷範子

作者は花園の番人。ひまわりを運ぶと女手では意外に重い。炎天の作業は過酷。誰かヘルプ、ヘルプ。

落づるのわずかに甘き終戦忌 西谷範子

昨今の時代、落づるの味を知る人は少なくなりました。

口に含んだ甘味に戦中・戦後の時代を思う。

終戦忌の措辞が全てを語る。佳句。

地蔵川ラムネの味の癒しかな 羽尻 嵩

羽尻 嵩

醒ヶ井の清流。地蔵川の川床にラムネが冷える。

少年時代の思い出が蘇る。ガラス玉の栓が弾けて炭酸ガスが

噴き出す。あんな時代に戻りたい。

真昼間の背を丸くして田草取り 川井秀夫

川井秀夫

連日の猛暑。里山のワーカーさんご苦労さん。

今年の田草は珍種、手がやける。ああしんど。

山霧の芯に佇む伊吹かな 川井秀夫

川井秀夫

八月例会。伊吹山頂は視界不良。誰も泣き言なし。

霧のミストに夏山は最高気分。下界に降りたくないね。

カサブランカ百鉢竝ぶ厄の寺 川井秀夫

川井秀夫

七月例会。矢田丘陵 松尾寺。カサブランカは大型の洋花。

芳香が充満。疾病神も匂いに負けて神通力を失う。壮観

癒しの散歩道



短くも忘れじの夏よさようなら

谷川萬太郎

つい昨日までのあなたは どこへ行ってしまったの
夏と潮風に戯れる 無邪気で笑顔が似合うあなた
楽しかった季節の思い出を 憎い夏の涙雨は奪った
名残り惜しい夏の足跡が いつか夜空の儂い一番星に

今差し昇る淡い光の影で 季節の支度を急ぐ山河の調べ
秋の空はあなたの澄んだ心 流れる雲の先に未来がある
過ぎ行く時の流れは遠くへ 忘れじの故郷を探して進む
一つの季節が終わるたびに 切ない胸の哀しみ込み上げる

静寂の殻を破る潮騒の音に 静かに渚に駆け寄る旅人よ
故郷の景色を思い浮かべ 打ち寄す波に口笛が旅愁を誘う
童が放った紙風船が空へ 果てしない海の旅路へと出発した
海風に乗り何処までゆくの 見知らぬ土地の日暮れの里まで

ならやま茶論



「待ち遠しい」

竹本雅昭

翁：奥さん暑いのに大変だね。

カルガモ：ありがとうございます。

翁：こんなに暑いんだから抱かなくても大丈夫
なんじゃないんですか。

カルガモ：まあ！何てことを、苦しい愛情があ
ってこそ子は育ってくれます。

翁：すみません。6玉も育てられるご苦労お察
しします。今、我々の世界では少子化が大
問題、昔は5～6人兄弟が多かったのに。

カルガモ：それはお気の毒ですね。

私もこんな小さな沼での出産が気掛かり
でしたけど、主人の情が濃いもので・・・。
それからこの人々は自然を大切に

の思いが強い方々で安心しました。

翁：その通りですよ、無事を見守っています
よ。

こちらから見ると南太平洋に浮かぶ無人島
の様に見えるけど、その紫陽花はまだ小さ
くて日除けの役はしてないけど、熱中症で
水に落ちんようになる。

カルガモ：ええどうも。

皆さんにも子達の行列を見て頂けたら嬉し
いんですけど。

翁：ああ是非見たいね。

12本の足の行進を思うと目がへの字にな
るわ。

より多くの人を楽しんで 支え合うエコファーム運営

古川祐司、鈴木末一

平成19年4月、ならやまプロジェクトがスタートし、先ずベースキャンプ造りに着手しました。そこは2m近いセイタカアワダチソウの生い茂る原野でした。奈良県から5台の刈払い機を借り受け、2か月かけて約10アールの草を刈り、トラクターで整地し、ベースキャンプと畑の土地を確保しました。これがならやま農園の出発点です。

畑の土地は小石混じりの砂質で、明らかに肥料留まりの悪い土壌で、作物を育てるには多量の堆肥を入れる必要がありました。初年度は荒地でも育つサツマイモ、トウモロコシを植える一方で、造園業者からチップ堆肥を購入して土壌改良に取り組みました。

2年目の平成20年度から里山整備、笹藪刈取りの景観整備の取り組みを加え、3部門の活動がスタートしました。しかし、当時の参加者は平均20名程度でしたから、その日の活動テーマを決めたら原則として全員で作業をすることにしました。この年度、笹藪の刈取りが進み、C地区の放棄田が全貌を現し、年度末に県の業者により畑地として整備されました。刈取った膨大な量の笹はチップ機で粉碎し、近隣の牧場の厩肥も加えて本格的に堆肥作りが始まります。川井さんの発案で茄子クラブが発足したのもこの年です。メンバーが苗代や資材などの費用を拠出し、栽培・収穫も自己責任で取組むことにしました。

3年目、ならやまプロジェクトは、3グループ（里山、農園、景観）体制となりますが、農園グループの基本的なコンセプトは、世話人会で次のように取り決められました。

- ① **ならやま里山林の景観整備の一環として、整然とした農園の維持管理を行う。**
- ② **チップ堆肥と近隣牧場の厩肥を活用したエコサイクル無農薬・有機栽培を目指す。**
- ③ **大和伝統野菜、茄子クラブなど会員が楽しめる品目ややり方も取り入れる。**
- ④ **農事収入・費用のバランスを確保に努め、今後の事業推進のための基金を設ける。**

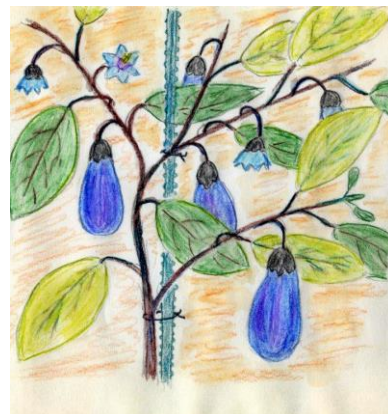
里山景観整備プロジェクトについての確たるコンセプトが打ち立てられ、これらの基本理念を大切に活動を継続させています。

今年から「農園グループ」の名称を「エコファームグループ」に改称しました。エコサイクル無農薬・有機栽培に、より一層努力することを明確にしていくためです。手始めとして、茄子・唐辛子・南瓜・オクラ・サニーレタスなどの苗を購入せずに、播種から育苗へのチャレンジです。2月に育苗ハウスを製作。木枠類は廃材を活用し、縦1.8m×横3.6m×高さ1.0m、側面は透明ビニール、屋根の部分は養生パネル（プラ段ボール）利用の簡易型ハウスです。初期加温等が来年に向けた課題でした。このような施設であっても、立派な苗を育てることができました。苗作り半作と言いますが、メンバーの皆さんの熱意が、野菜類に伝わったのでしょう。

市街地の中に奇跡的に残された里山の魅力は、様々な経路を辿って外部へと伝わっています。地縁・人縁により、年々会員数が増加していますが、それに甘んじていることは許されません。見失ってはならない大切なことがあると思います。時に触れ折に当たり、原点の理念を確認していかなければなりません。

ジグソーパズルではありませんが、個性豊かな人々の集まりです。一人一人が里山の自然の営みを感じながら自分を委ね、仲間と寄り合いつつ、気持ちの良い汗を精一杯流せば、日頃の悩みやストレスも吹き飛び、心身共に蘇ってきます。

心の共有・共感を大切にしていける事により、大きな白いキャンパスに「ならやま桃源郷」を完成させられると思います。



まさしく
鈴なりの
ナス

(画・永井幸次)

ならやまプロジェクト

活動予定日

9月	4 (木) 25 (木)	11 (木)	18 (木)
10月	2 (木) 23 (木)	9 (木) 30 (木)	16 (木)

◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に広がる里山林地]

◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆ 終了予定：午後3時



9月4日

<里山 Gr>

「ならやま自然の森」 散策路周辺整備

<工房 Gr>

玉葱の苗床づくり、大蒜植え付け畑準備、
各種野菜類の収穫

<景観 Gr>

草刈り（彩の森、BC 付近）
皇帝ダリア園草引きと支柱、麝香揚羽蛹のための整備
水生生物調査、池の整備

9月11日

<里山 Gr>

「ならやま自然の森」 散策路周辺整備

<工房 Gr>

大根種蒔き（YRくらま）
大根種蒔き（紅心&辛味&カザフ）
大根種蒔き（漬物大根）
蕪など種蒔き

<景観 Gr>

草刈り（植樹園）
シェードガーデン
草引きと整備
池の整備



アクセス

① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分

② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場

8：27 発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場

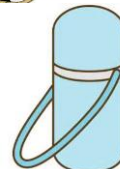
8：38 発 JR 奈良駅行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

◆ 携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）

◆ 環境保護のため、お椀、箸、
コップなどは各自ご持参下さい。

◆ 連絡先：木村 裕



9月18日

<里山 Gr>

「ならやま自然の森」 散策路周辺整備

<工房 Gr>

大根種蒔き（YRくらま）
大根種蒔き（聖護院）
玉葱の種蒔き

<景観 Gr>

草刈り（植樹園）
山野草園草引きと柵作り
水生生物調査、池の整備



9月25日

<里山 Gr>

「ならやま自然の森」 散策路周辺整備

<工房 Gr>

大蒜の植え付け

<景観 Gr>

ならやま会館前清掃、草刈り（BC 付近）
黄花コスモス撒収と畑作り
池の整備





行事案内 part 1

自然教室チームだより

9月の自然観察会

矢田丘陵の秋の植物観察

昨年7月に引き続き、今年も御宮知伸彦さんに大和民俗公園近辺の秋の植物観察を指導していただきます。昨年同様 多彩でびっくりするような自然観察を楽しみましょう。

自然に関心のある方なら、どなたでも楽しんでいただけたと思います。多くの方のご参加をお待ちしています。

奈良・人と自然の会全員向けの行事です。



- ◎ **日時：9月16日(火) 9時～14時の予定**
(サマータイムで実施しますが、終了時間が延びる可能性もあります。)
- ◎ **集合場所：大和郡山市少年自然の家入口近辺**
(〒639-1058 大和郡山市矢田町 574)
* 県立大和民俗公園駐車場から更に300mほど進んだところ
- ◎ **持参するもの：食事、飲み物(多い目に用意)、雨具、筆記用具、あれば図鑑とルーペ**
- ◎ **アクセス：奈良交通バス(72系統)で矢田東山下車 徒歩20分**
* 近鉄郡山駅からJR小泉駅東口行
…8時05分、25分(乗車12分)
* JR小泉駅東口から近鉄郡山駅行
…8時00分、15分(乗車17分)
* 車の場合は自然の家の前の駐車場、または大和民俗公園駐車場を使用
- ◎ **雨天の場合の判断：会の基準による。**
- ◎ **担当：倉田**

歴文9月研修会

「御所市の歴史探訪Ⅱ」のご案内 —秋津洲の道を訪ねる—

原爆忌、終戦の日、GGイベント、お盆、全国高校野球、台風、豪雨・・・、8月も忙しい月でしたが、お変わりございませんか。

さて、9月の歴文の研修会は、御所市の秋津洲(あきつしま)の道をマイクロバスで訪ねます。

御所市の南部を横断するこの道は、古代から現代までの多くの史蹟・伝承や文化に彩られています。神武天皇の即位場所との伝承の「神武天皇社と嘸間神社」、修験道の開祖役行者の出生地「吉祥草寺」、葛城氏・巨勢氏の大型古墳、日本武尊の「白鳥陵」、人間の尊厳と平等を宣言した「水平社博物館」、葉の歴史の「三光丸クスリ資料館」等々。

今回のテーマの一つの役行者は、現在会報に掲載中ですが、筆者の川井さんから蘊蓄のご披露をお願いしています。さらに一言主神社の彼岸花など、初秋の葛城の風景も愛でながら歴史と文化の探訪となります。どうぞご期待ください。

《実施要領》

- ・日時：9月24日(水) 8:30集合
- ・場所：中小企業会館前(近鉄奈良駅東)
- ・参加費用：2500円
- ・担当世話人：川井、弓場、森、古川
- ・定員：27名(申込順に承ります)

《コース》

近鉄奈良駅⇒吉祥草寺⇒水平社博物館⇒神武天皇社・嘸間神社⇒三光丸クスリ資料館(昼食)⇒孝安天皇陵⇒掖上罐子塚古墳⇒日本武尊白鳥陵⇒條ウル神古墳⇒一言主神社(彼岸花)⇒近鉄奈良駅帰着(予定) 16:30

(オプション：古民家中村邸、柿本神社など)

《参加申込》

- ・事務局宛メールまたはFaxで申込んで下さい。
- ・申込み期限：9月10日(満員になり次第締切)
- ・申込先：事務局 古川宛

行事案内 part 2

H26年9月 月例研修会

高野山町石道 (ちょういしみち) ハイキング

高野山町石道は、慈尊院（和歌山県伊都郡九度山町）から高野山（和歌山県伊都郡高野町）へ通じる高野山の表参道です。弘法大師が高野山を開山して以来の信仰の道とされてきた。今回は、コースの前半を歩くことになります。途中柿畑、杉林、紀の川、丹生都比売神社、二つ鳥居と見るところは多くあり、変化に富んでいます。クマ出没の看板も気になります。

担当：境 寛

森 英雄

日時： 9月30日(火)

集合時間・場所：8時30分



南海電車なんば駅 3F 北改札口

特急券売り場前 8時50分橋本行急行に乗車、橋本乗り換え九度山10時3分着 (運賃790円)
雨天時について、会の申し合わせ事項に準じて、前日午後7時前のNHK TV天気予報で和歌山県北部の降水確率が午前60%以上の場合は中止します。平日 通勤時間帯ですが、逆方向ですので電車は空いています。コースでの、注意するところは、古峠からの下りは、ややきついです。
 参考までに、コース概略を示します。

奈良県景観サポーターのならやま研修

今年度も奈良県の地域景観づくりの推進役を目指す「奈良県景観サポーター」が募集されました。この景観サポーターになる皆さんの基礎講習の一環として、今年も当会のならやまフィールドが景観づくり活動体験の場として指定されました。

日時： 10月2日(木) 9~15時の予定

参加者： 受講者+県の関係者の方 約20名

- 内容： ①オリエンテーション他
 ②里山保全活動体験 (伐採・処理)

③当会会員との意見交換会

④ならやまの自然景観観察 等々

この制度は3年目となり、これまでに43名の方が景観サポーターとして県に登録され、各地で活躍されています。

私達も昼食時からの意見交換の場を通じ、景観サポーターを目指す方々との懇親を図りましょう。

県の担当：景観・自然環境課 景観保全審査係
 (事務局 塩本勝也)





行事案内 part 3

10月月例研修会 予告

一泊研修旅行「芦生の森」探訪

京都北山の最深部にある「芦生の森」は、人の手が全く付けられていない広大な原生林です。国内有数の植物の多さでも知られています。京都大学の演習研究林となっています。大学から認可を受けた自然ガイドの案内で専用バスを使い、一日ネイチャートレッキングを行います。初日は皇室ゆかりの禅宗寺院「常照皇寺」を拝観し、美山町の国の重要伝統的建造物保存区域に選定されている「かやぶきの里」を訪ねます。二日目帰路には、「ひよし温泉」にも立ち寄る予定です。詳細は、次月号でご案内いたしますが、参加希望の方は幹事までご連絡ください。

- ・実施日；10月20日(月)～21日(火)
- ・定員；先着順32名(10月6日締め)
- ・集合；近鉄「高の原駅」前 8:30
- ・会費；23,000円(予定)
- ・幹事；川井、青木、田矢、寺田
- ・受付；寺田

10月19日(日)「花とみどりの楽校」講座

平成26年度生駒市の市民講座(全9回)が催されます。その第4回目「先進取り組み地視察と実習」への協力要請があり受託しました。関係者と受講生30名来訪予定です。



間伐体験実習サポートと里山林整備地の視察スタッフご協力よろしくお願ひします。

(阿部和生)

歴史10月研修会予告

しながだに 「磯長谷の梅鉢御陵を訪ねる」

二上山の山麓から西の石川の流域にかけて広がる磯長谷は、古代から渡来人と有力豪族が住み、蘇我氏の根拠地の一つでした。この谷は蘇我氏の血を引く天皇(敏達、用明、推古、孝徳)の御陵と聖徳太子廟が集まり「王陵の谷」と呼ばれています。また5つの陵墓が梅鉢の形に分布していることから「梅鉢御陵」の名で親しまれています。

また石川の流域は、石川源氏発祥の地で、著名な八幡太郎義家ら源氏の棟梁3代の墓と菩提寺の通法寺、総氏神の壺井八幡があります。

今回は、マイクロバスで磯長谷を探訪した後、『近つ飛鳥博物館』で古墳時代～飛鳥時代にかけての歴史展示を見学します。

《実施要領》

- ・10月8日(水) 8:30 近鉄奈良駅集合
- ・参加費用：2500円の予定
- ・定員：27名
- ・担当世話人：坂東、杉本、古川(歴史事務局)

奈良学クイズ

【問】 写真の二人の高僧は、奈良に縁の方々です。お名前をお答えください。



(1)



(2)

※ 応募方法：メール(広報) 又は FAX

※ 応募締切：9月2日(火)

※ 8月号・正解「鳳凰文壇」

(ほうおうもんせん)(壺阪寺)

平成26年・8月度幹事会報告

- ◆日時:平成26年7月30日(水) 13:00~17:00
- ◆場所:奈良市ボランティアセンター
- ◆出席者:幹事19名、委員2名、顧問2名
- ◆案件:
 - ①会員動向、会計報告 (会員は153名)
 - ②月例研修会、自然教室、イベント等の活動報告
 - ③ならやま:7月度活動実績報告、8月度活動予定
 - ④8/23「夏だ!休みだ!里山に行こう!」②について
 - ⑤10/2 奈良県:景観サポーターの受入について
 - ⑥10/19 生駒市:里山林の間伐、除伐体験
 - ⑦林野庁交付金制度の進捗状況について
 - ⑧ネイチャーなら9月号の編集について
 - ⑨ホームページの運用について
 - ⑩グリーンギフトプロジェクトの更新について
 - ⑪幹事会の日程見直しについて
 - ⑫活動日の判断基準となる天気予報について
 - ⑬8~10月の行事予定の確認、その他

以上

ペン画に寄せて 境 寛

8月4~5日にかけて、ボーイスカウトの高校生と西大台から小処温泉に行ってきました。台風11号と12号の合間で、曇り時々晴れの最高の登山日和でした。

利用調整地区の指定のお陰げか、我々4人だけの静かな山を堪能。西大台の苔、ブナ、ミズナラ、ヒメシャラの木々、バイケイソウ、ミヤコザサの植物、小峠からの大蛇ぐらの展望と静かな素晴らしい山行になりました。



「キラキラ輝く キミの夏」

今年も球児達の青春ドラマが展開され、汗と涙が光る数々の感動の場面に出会うことができました。

「8」という数字に纏わる試合がありました。中でも初回にいきなり8点を許したが、終盤の猛追で逆転勝利した岐阜代表の大垣日大高校。阪口監督は、甲子園30回目の出場という名将です。ゲームセットの瞬間に目頭を押さえられる様子が放映されました。「練習に泣き試合で笑える」ために、艱難辛苦を乗り越えてきた選手達との絆の強さと信頼感、そして、師弟同行の真髓を教えられました。共に汗と泥に塗れることによってこそだと思います。



31年前の65回大会、あと一步で甲子園への道は叶えられませんでした。思いの丈をぶっつけて戦い抜いた選手達と、「よくぞここまで」の心地よい汗と〇を流した光景が脳裏から離れず、20数年後、閉会式の挨拶で、準優勝校の選手達に激励と労いの多くの言葉を送ったことを思い出します。



ならやまのフィールドで、活動のコンセプトの共有を図りつつ、爽やかな汗を流し続けて行きたいものです。行こうフィールド!この里山へ!! (里山人)

申し合わせ事 項

ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後7時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の、降水確率が午前60%以上の場合は、中止になります。

※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日の【金曜日】を臨時活動日とします。

※ 種々ご都合もあるかと推測されますが、「ならやまプロジェクト」の推進のためにもよろしくお願ひします。

会報誌[ネイチャーなら]・第152号

発行:奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲

<http://www.naranature.com>



10月号の印刷・発送予定について

日時:平成26年9月29日(月)am9:00~

於:奈良市ボランティアセンター



◇ 編集チーム・代表 鈴木 末 一